



大西庄之助編輯  
鹿兒島軍記十号



10

15

20

25

A433  
36



五月五日曉より火のきり甲突川  
 多山の中腹小柵をまきけ防柵不  
 城の後山に堅固なる胸壁を

鹿兒島軍記十号  
 大西庄之助録  
 河村参軍大山  
 高島の持枝の四月廿七日  
 鹿兒島小上陸あり曾我少  
 将岩村練合も引ついで着  
 港あり城に通つる四絲庭の  
 官史と捕縛し民心を安ん  
 要所小砲壘と築甲突川の  
 中間に竹柵を結び鹿兒島

48-7710

鹿兒島藩士族は  
 て戊辰の  
 役小  
 大功  
 あるを以て  
 一度官途小進に  
 自ら辞して郷里よりの  
 今同西郷小同意して熊本へ



別府新助

出兵

官軍小  
抗敵す

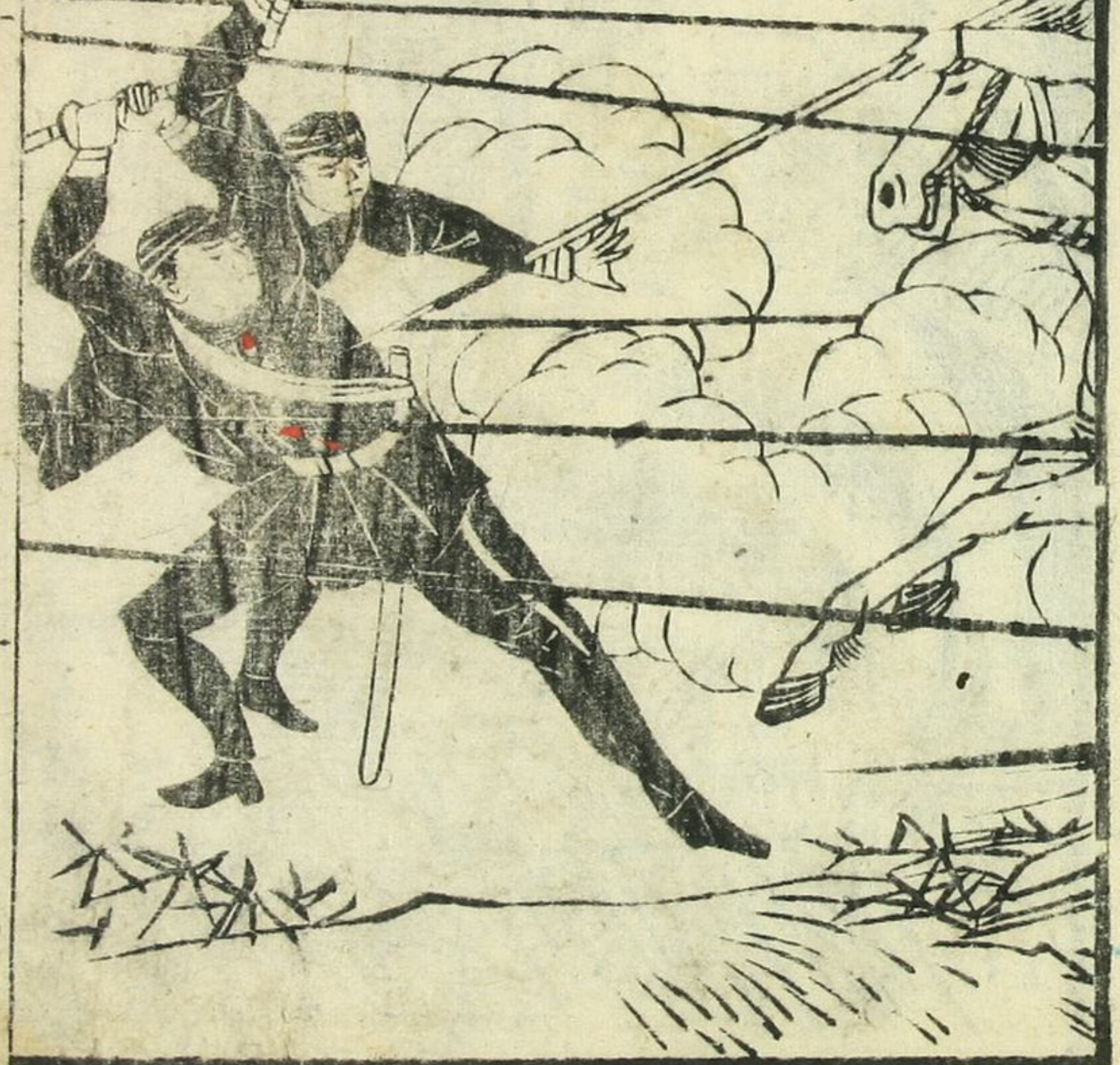


野世弥九郎

西田

川岸七  
族郎

東南の方へ  
延焼此際此の西  
水神坂より一隊の城  
襲ひきつり城山の後  
る絶壁断崖どのの  
とせせり拳りのぞん  
とあせりしが  
官軍の山上  
より

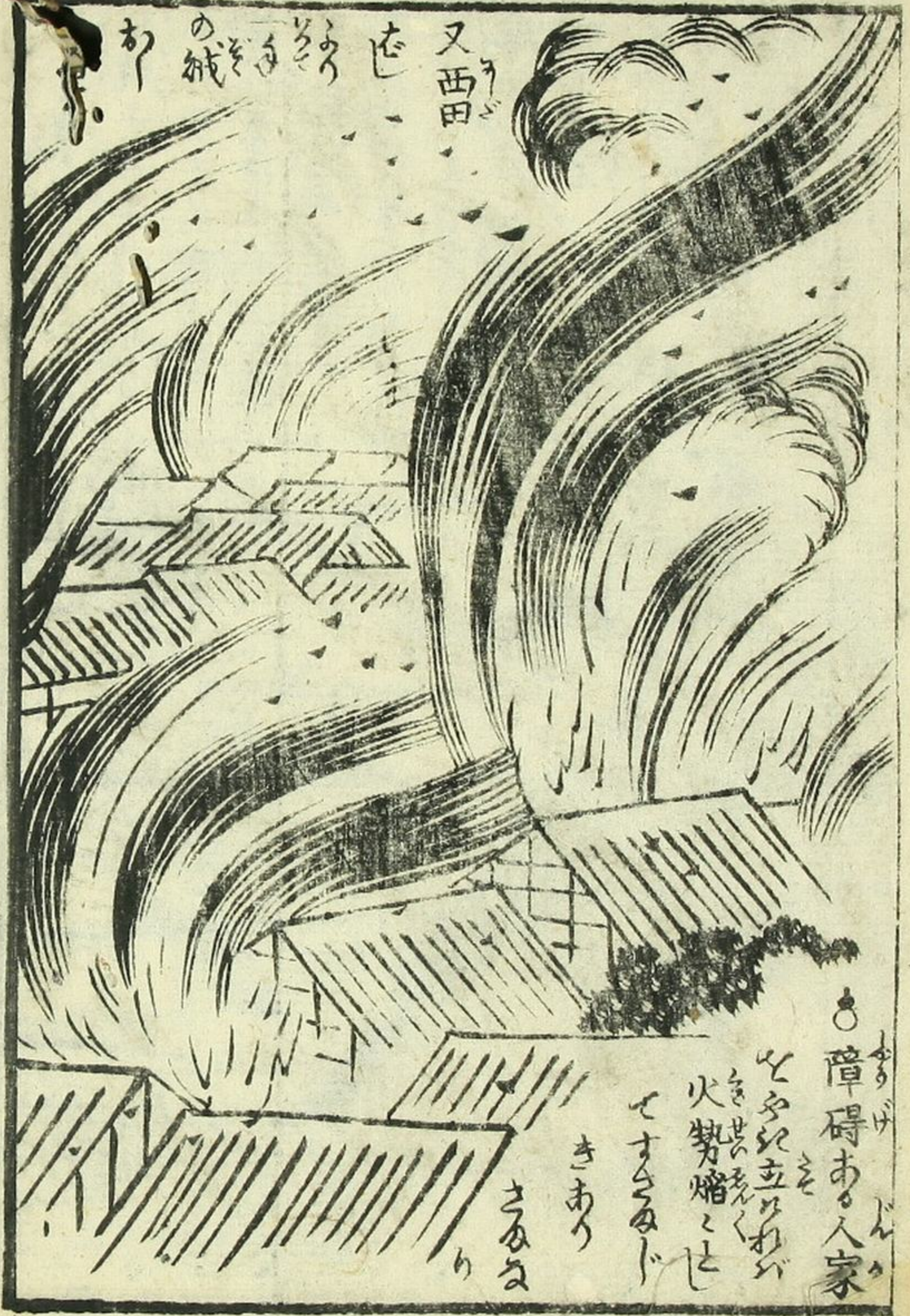


野世弥九郎討死す



川と隔て  
 大小砲と  
 進み  
 軍の頻り  
 防禦

馬見

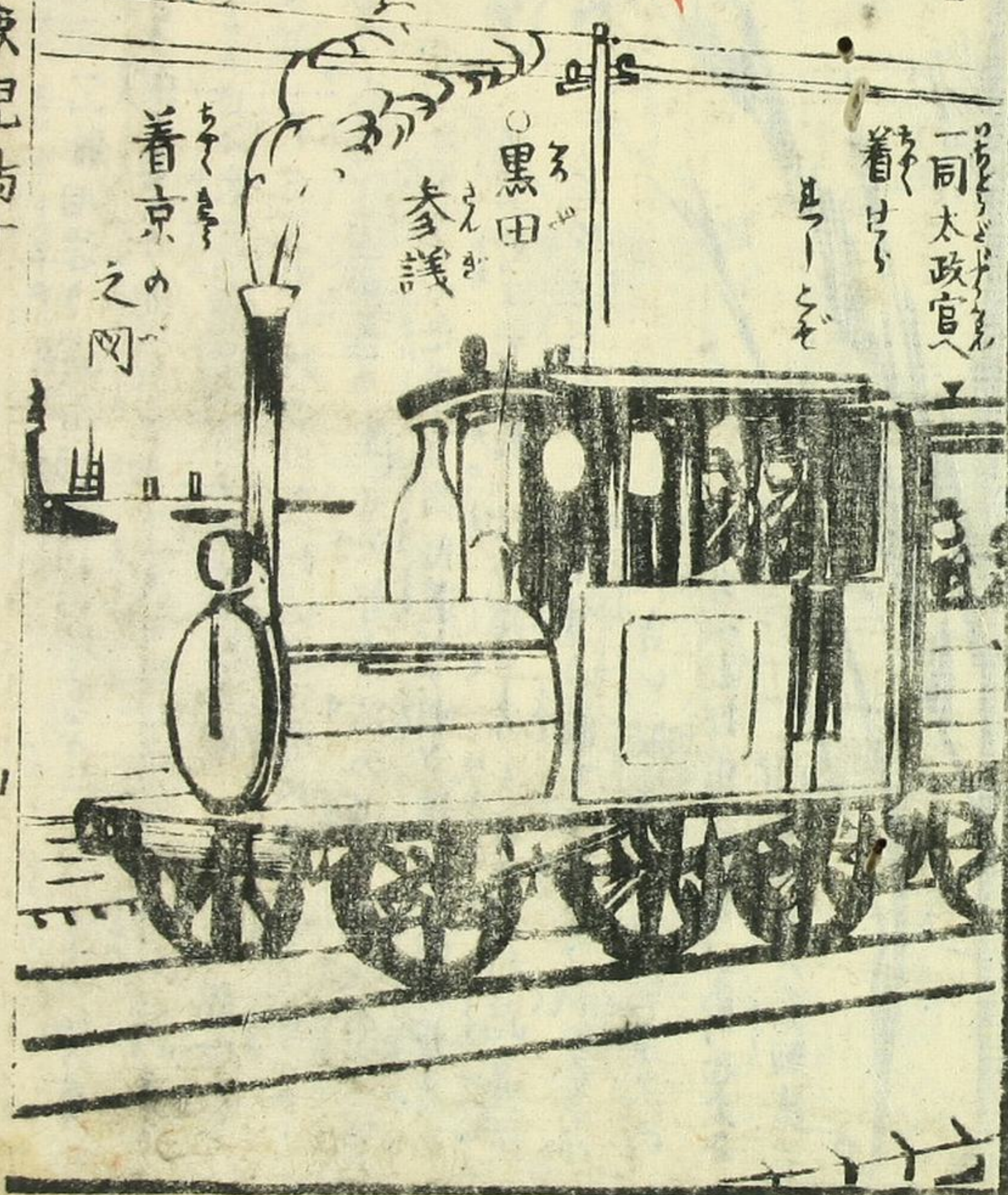


又西田  
 の城

障碍あり  
 火勢熾く  
 家

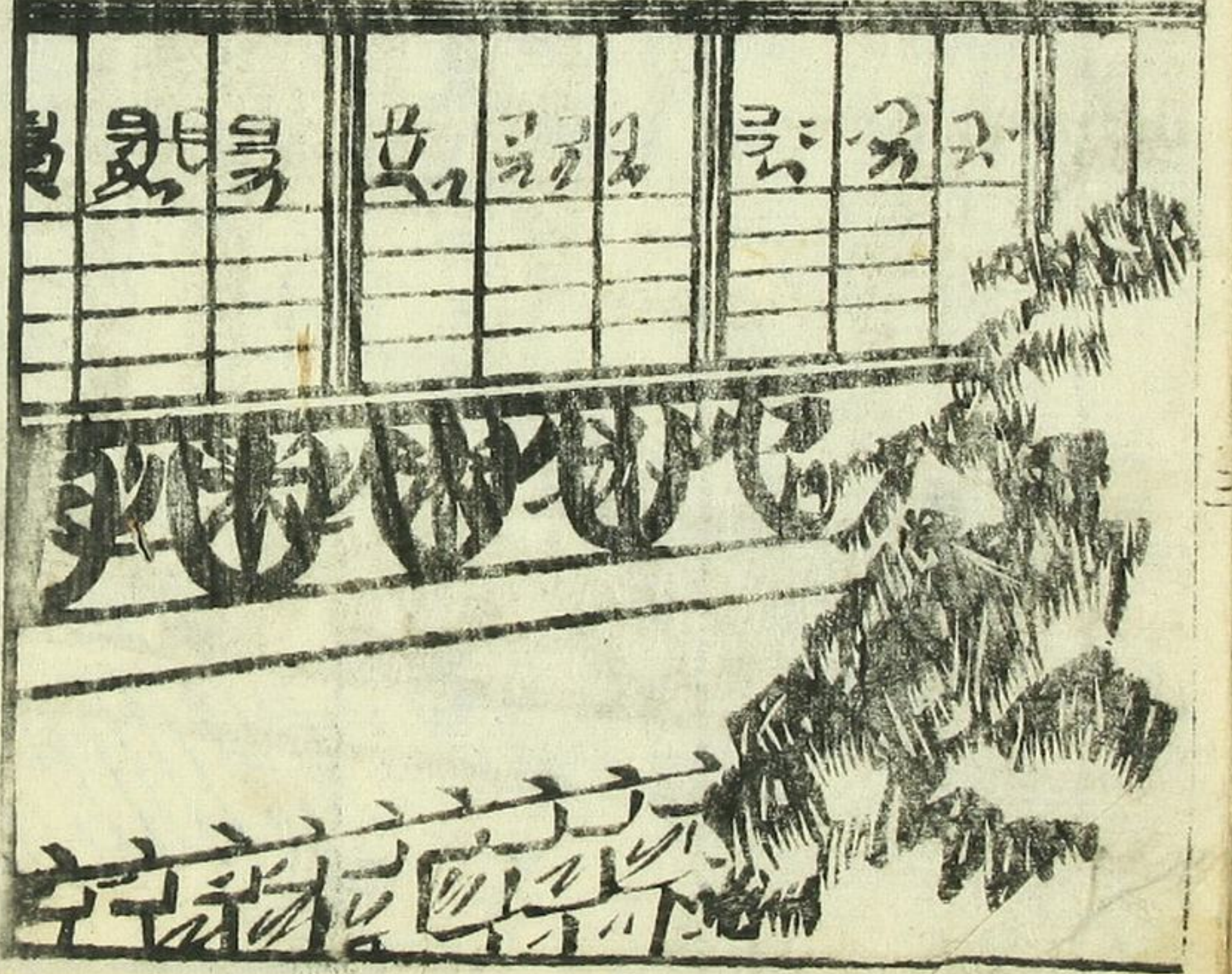
きあり

五月八日  
 横濱に着  
 直小  
 汽車  
 めく東  
 京へ着  
 せられ  
 うその日  
 早朝より  
 東伏見宮  
 岩倉公へ



東見島十

さを賊い  
 大口小屯集り  
 蒲生に千余人  
 その他所々に殺  
 人あつまりとり  
 又三千人あど  
 伊敷より谷山  
 のくえ線出  
 たりといふ  
 ○黒田参議か  
 倉公と御合  
 のりあて



馬車小岩  
 倉公と御合  
 のりあて

大木公  
 出迎の  
 新むの  
 ステーション  
 より御料の

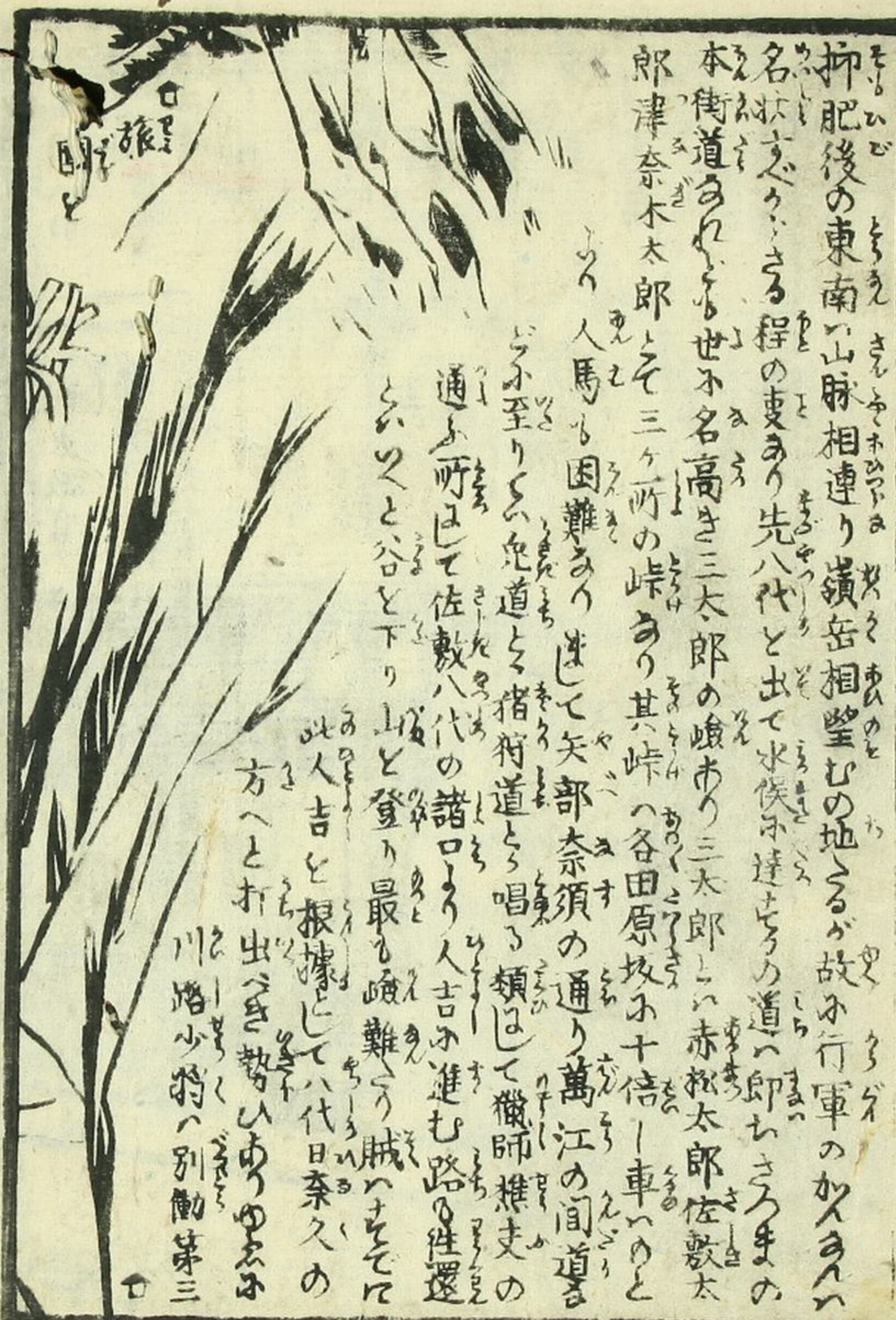


桐野利秋

佐敷

水俣

のり



旅

抑肥後の東南山脈相連り嶺岳相望むの地なるが故に行軍の如く入る  
 名状なき程の更あり先八代と出て水俣に達するの道へ即ちさるまの  
 本街道ありとも世に名高き三太郎の嶮あり三太郎といふ赤松太郎佐敷太  
 郎津奈木太郎とて三ヶ所の峠あり其峠へ各田原坂十倍一車へのと  
 り人馬も困難ありして矢部奈須の通り萬江の間道  
 に至りては免道と猪狩道と唱る類はて徹師推丈の  
 通ふ所はて佐敷八代の諸口より人吉に進む路は往還  
 とのつと谷と下り山と登り最も嶮難なる賊ハナとて  
 此人吉と根拠にして八代日奈久の  
 方へと打出る勢ありゆゑ  
 川路少将ハ別働隊三

第一 第一旅團  
野津三好  
の両将  
水煎寺郎  
陣一木山  
大津の方と  
守り堀江  
中佐ハ熊木  
鎮



板垣退助

○五月十二日  
軍艦二隻と  
向の沖へ  
まのり大砲を  
くらげのさる小  
田 たるまふより  
西京小出で  
政府に  
招請を  
請求  
せんと  
す

原の之  
出張  
第三旅團  
三浦少将の  
子の佐敷と  
本陣と別働  
第四旅團黒  
川大佐の海  
日奈久辺別働  
第二旅團山田少  
将の部下松



立志社の社員

後藤象三郎

▲球摩と本陣と  
諸道あり進と人吉  
と隘の息んいふもたれり  
茲小前の参議板垣退助氏の高知  
縁にありしが旧藩士族ら同志とのり

延岡小出集の  
賊ハ狼狽  
病院  
その他  
とされし

初  
の官軍は六日より  
進撃を初めし  
此日山田少  
將の持  
場へ賊兵  
推原の方より  
來襲し八日申同  
來襲し八日申同  
來襲し八日申同  
之を折退け賊と追討  
て進め中村白岩戸の諸村を  
空らしめ又川路少將の  
先をいひませ



取んと嶮岨の難道と  
こゝその一手は球磨  
川の左よりに  
たふの木村ふ  
戦つて賊と  
あり申  
田神の瀬  
の方へと進  
むの小川内  
大川内ふ戦つ  
て同く賊と  
あり藤瀬へ

薩州の境と踰えし  
水俣小陣一水俣川  
傍て兵と進め久野木  
張出し八日賊兵突然  
皆後ろへ切込るに  
巡査兵防戦するを  
得ずし遂に放し  
大関山久野木村を  
川をとりて仁王木村へ  
引退く又佐敷只  
黒川大佐の手ぬ  
九日申兵と三  
分ち龍瀬の要地

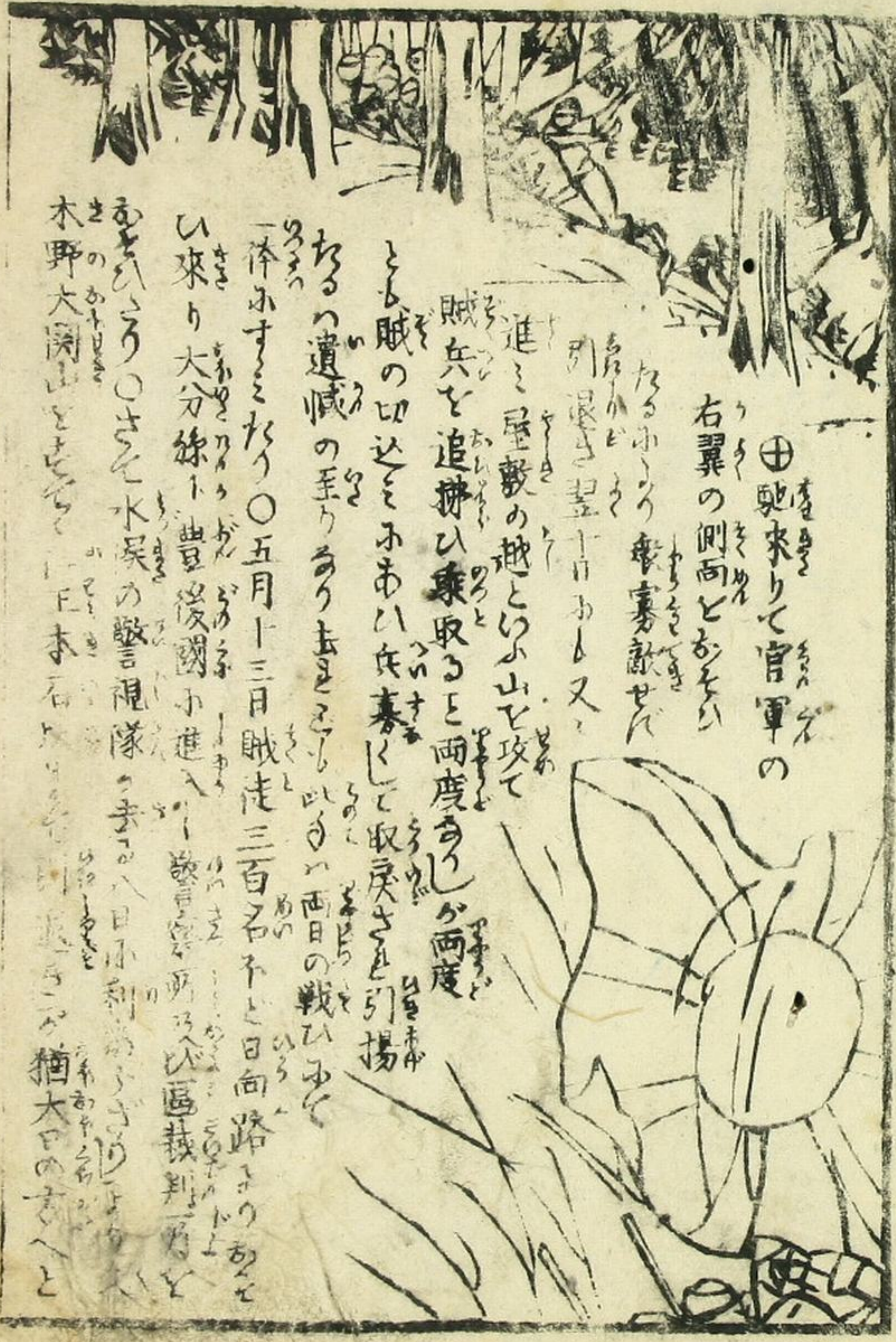


とす  
き  
とす  
鎌崎  
賊星二ヶ所  
陥して上白木  
か





才木合して能瀬山向くと  
時賊の援兵忽然  
と松崎村の諸野  
より



馳來りて官軍の  
右翼の側面とおそり

進屋敷の越といふ山を攻て  
賊兵を追辨以乘取ると二度あつしが二度  
とも賊の切込をふかひ兵暮して取戻され引揚  
たるの遺賊の至りありまこと此の二日の戦ひにて

一併ふすにたり○五月十三日賊徒三百名を日向路よりあて  
い來り大分縣ト豊後國ト進入ト警備隊あり區裁判二野ト  
あまひころのさそ水尻の警備隊と去る八日小利のささりト大  
木野大関山とまると上木石とまると別道より大関山の方へと

三浦少将の二大隊  
 中水保ふ着し  
 暴徒の  
 此地を  
 〇日向の賊ハ八百人を  
 豊後の窪寄と竹田とあり  
 巡査と  
 せり合あり又  
 浅間子益春の  
 両艦より  
 兵士と上  
 陸とを巡  
 査隊と  
 合せ

窪寄の  
 暴徒の  
 此地を  
 竹田の賊と  
 合しあり  
 豊後各地の  
 士族の岡  
 とのどくの  
 外ハ賊の志  
 ざるのさく  
 賊の岡と根拠と  
 右羽美の  
 官軍  
 佐敷の  
 又廿三日  
 敗走  
 戦ひ  
 あり原  
 あり



進んとするに  
 十日の夜賊襲  
 破と渡り野へ  
 引あけし  
 処十一日

伊藤世  
 官軍  
 賊と  
 防と又





小平山掃門越  
 あしの峠今  
 井坂あつこ  
 三里の向  
 救十ヶ処を援  
 賊の統率  
 輜重をすそ  
 走る官軍  
 進んで鏡山と  
 稲の賊は佐敷  
 飯瀬の陣と  
 自焼て走り  
 官軍大勝利

あり賊軍  
 猶も兵と  
 つのり兵  
 嶽より米の  
 津まを西郷隆盛  
 所々  
 だの本と  
 築き出水  
 阿久根野田  
 高尾野中島  
 四ヶ郷の老  
 若士と  
 脅迫

桐野利秋  
 隆盛の諸將  
 西郷隆盛  
 軍議を  
 決し  
 陣  
 村田  
 新八  
 副將  
 二十人  
 此の  
 兵七



小平山掃門越  
 あしの峠今  
 井坂あつこ  
 三里の向  
 救十ヶ処を援  
 賊の統率  
 輜重をすそ  
 走る官軍  
 進んで鏡山と  
 稲の賊は佐敷  
 飯瀬の陣と  
 自焼て走り  
 官軍大勝利

あり賊軍  
 猶も兵と  
 つのり兵  
 嶽より米の  
 津まを西郷隆盛  
 所々  
 だの本と  
 築き出水  
 阿久根野田  
 高尾野中島  
 四ヶ郷の老  
 若士と  
 脅迫

村田  
 隆盛の諸將  
 西郷隆盛  
 軍議を  
 決し  
 陣  
 村田  
 新八  
 副將  
 二十人  
 此の  
 兵七

鹿白

庚巳



鹿兒島軍記十号了

八千余人中軍  
 西々隆盛副將ハ  
 三十人兵士万有余  
 人等三陣ハ桐野利秋副將ハ  
 十五人兵士八千余人  
 村田桐野のニカ多ハ鹿兒島にむかハ  
 西々ハ日向佐土原城と根據と  
 諸方へ打出さるる

010190510455

